

サブシステムの再構成(15) (HP 収載)

1. はじめに

前報(14)に引き続き、サブシステムの新たな入れ替えを実施します。

2. サブシステムの再構成の内容

サブシステムの再構成について、前報(11)、前報(12)、前報(13)で報告してきましたが、今回、別宅に置いてあった TANNOY III LZ と駆動アンプの Pilotone の Tungsol 5881pp アンプを持ち帰り、再度ラインアップに加えることを実施しました。

そのために TELEFUNKEN L-61 を異動させ、その位置に TANNOY III LZ を設置します。また、IPC 1029 KT66 シングルアンプを外に出して、Pilotone Tungsol 5881pp アンプと入れ替えます。



TANNOY III LZ



Pilotone Tungsol 5881pp アンプ

TANNOY III LZ のために TELEFUNKEN L-61 は部屋の両サイドに寄せています。



ざっと結線をして下記の音源を再生しました。

アナログ盤

Deutsche Grammophon 483-6927/6928/6929

J.S.Bach Sonatas & Partitas

Nathan Milstein (Vn)

Philips 25-PC35-36

J.S.Bach ヴァイオリンとチェンバロのためのソナタ集

アルトゥール・グリュミヨー(ヴァイオリン)

クリスティーヌ・ジャコッティ(チェンバロ)

STAGE+

バッハ 無伴奏ヴァイオリンソナタ・パルティータ

シュロモ・ミンツ(ヴァイオリン)

バッハ Goldberg 変奏曲

ラン・ラン(ピアノ)

シューベルト ピアノ 5 重奏曲「鱒」

リサ・パテイアシュブビリ(ヴァイオリン)他

3. サブシステムの再構成の試聴結果

まずは、アンプの入れ替えのみ実施し、Pilotone Tungsol 5881pp アンプで設置済の AXIOM80 を駆動し、STAGE+の 3 曲を再生してみました。AXIOM80 には、ムジカライザー ML-6 経由の接続です。音質は、これまでの Langivin 6V6pp アンプ駆動の場合に比べて遜色なく、Langivin 6V6pp アンプよりエッジが効いており、駆動力が強いくらいの違いです。

次に、AXIOM80 から TANNOY III LZ に接続替えします。TANNOY III LZ には、

ムジカライザー経由の接続です。

アナログ盤の J.S.Bach の Sonatas & Partitas は、ミルシュテインの艶のあるヴァイオリンの音色が馥郁と香るような音で、前報(11)から前報(13)までの、どのスピーカーより相性が良い再生ぶりです。

J.S.Bach のヴァイオリンとチェンバロのためのソナタ集は、これもグリユミヨールの艶のあるヴァイオリンの音色とジャコッティチェンバロの繊細感をしっかり表現しています。

STAGE+のバッハの無伴奏ヴァイオリンソナタ・パルティータでは、ミンツの艶のあるヴァイオリンが疊感的です。前報(13)の TANNOY Autograph MINI と比べると音色はよく似ていますが、ヴァイオリンの胴鳴りがしっかり出ています

バッハの Goldberg 変奏曲では、ラン・ランのピアノの響きが美しく、前報(11)の AXIOM80 と比べると、打鍵の鋭さは AXIOM80 に譲りますが、響きの豊かさは勝っています。

シューベルトのピアノ 5 重奏曲「鱒」では、前報(13)のサイズの TANNOY Autograph MINI ではバランス的に無理がありましたが、そのあたりが解消され、弦のパートの艶は前報(11)の AXIOM80 に勝っています。

4. まとめ

TANNOY III LZ と Pilotone Tungsol 5881pp アンプがサブシステムに加わり、TANNOYらしい魅力的な音を聴かせてくれました。今後のスピーカーアキュライザーの導入を視野にいて、他のアンプとの組み合わせやさらなる調整と試聴を行っていきます。

以上